



最先端ときめき研究推進事業「バイオサイエンスの時代における人間の未来」
第33回ときめき★セミナー

ラカンの「性別化の式」をめぐる 存在論的解釈の検討

講師：千葉雅也／立命館大学

発表要旨：

ラカンは『アンコール』（セミナー第20巻）において、男性／女性とラベリングされた二元性の本質を示す「性別化の式」を提示した。本発表では、この「二元性」について、アラン・バディウによる分析（Conditions, 1992）をふまえつつ、さらに、2000年代の「思弁的転回 Speculative Turn」に関わる Levi Bryant による解釈とそれへの反応を参照しながら考察する。

日時：2013年1月21日（月）

17:00－19:00

場所：大阪大学（吹田キャンパス）人間科学部・東館2階ユメヌ・ホール

※どなたでも自由に参加できます
問い合わせ：tokimeki.bios@gmail.co
http://twitter.com/#!/tokimeki_bios

